

祝 辞

本学産業研究所所報『地域分析』が第1巻創刊号発刊より半世紀の星霜を経て本号をもって50巻を重ねるに至ったことは、大学人の一人として誠に慶ばしき限りであります。これもひとえに商学部教員一人ひとりの研究に対する不断の精進の賜物としてここに深く敬意を表します。

愛知学院大学は、1876年（明治9年）に創設され、130年以上の歴史を有する中部圏でもっとも伝統ある大学のひとつとして今日知られています。「行学一体」・「報恩感謝」という建学の理念に基づき、進取・多彩な教育・研究を目指しつつ先人が努力を重ねた結果、現在では、文・心身科学・商・経営・法・総合政策・薬・歯の8学部・17学科と、短期大学部1学科、大学院9研究科に学生総数12,000名を擁するところの中部地区でも有数の規模と充実した総合大学としての内容を誇るまでに発展しました。

ところで、本学の商学部は1953年（昭和28年）に“新生”愛知学院大学のマザー・スクールとして楠本の地に誕生しました。それから5年後の1958年に産業研究所は「経営研究所」の名のもと商学部の付属研究機関として創設されました。さらに1994年には今の「産業研究所」と名称が変更されて今日に至っています。こうして本研究所の足跡を辿ると、半世紀以上もの長きに亘り、学部・大学院との密接な連携のもと、商学部教員の研究活動を支える重責を担いつつ、愛知学院大学の発展とともに多彩な活動を展開してこられたことが窺えます。わけても本研究所における活動の中核を占めてきたのが、商学部教員の叡智を結集した成果を世に問う場としての研究所所報『地域分析』の公刊でありましょう。第1巻創刊号から最近の第49巻第2号・第49巻増刊号に至るまでそこに所収された多くの優れた論文を拝読すると、一学者として、たとえ研究分野は異なっても、その重み・手ごたえというものを痛いほど感ずるのであります。本号（第50巻記念号）はちょうどそうした50年の長きに亘る知的財産を後世に引き継ぐ一つの重要な節目であり、これを機に産業研究所の更なる発展をここに祈念しております。

愛知学院大学がこれまで創設以来一貫して取り組んできたのは、とりもなおさず禅の教えに基づく「人間教育」でありました。それは一人ひとりの学生と真剣に向き合い、可能性を導き出す教育であります。人間には本来、数字のみでは表せない本質的な能力が備わっています。その能力に対する自覚を促し、やる気を

引き出し、確かな成長へと導くことが、本学の果たすべき役割だと考えています。そのためにも教員個々人の高い志しと高い資質が望まれるのであり、本学のマザースクールたる商学部教員ならびに商学部の附属研究機関である産業研究所にこれらを強く期待するものであります。かくして愛知学院大学は、中部圏において研究・教育の両面で中心的な役割を果たしつつ、これからも時代の要請に応え、社会に求められる大学像を追求していくことであらうでしょう。

愛知学院大学学長 大野榮人